7月分市況報告書　　報告者　中島良晴

調査日　群馬県森林組合共販所　7月6日

今回の市は梅雨開けの暑さの中で行われた。
例年であれば、梅雨の真っ最中で材の皮剥けも激しく、原木の扱い
非常に難しい時期であるが、今年は(或いはここ数年は)水を揚げる時期
あまり皮が剥けないでこの時期をやり過ごしているよう
に皮が付いていれば木口の干割れだけで収まるが、皮の剥けた材は乾燥
弱く、直射日光を受けると木肌が胴割れを起こすため、あまり好まれ
のが普通であった。　もちろん皮剥ぎ丸太は乾燥が早く軽くなるため
昔は搬出の方法として行われた事もあったが、現在の様な有断林で
材が大なしになる。
今回はあまり皮剥けの材も見られず、出荷を懸念するような事態にな
材価は小幅な変動はある物の堅調と言える。
ヒノキに大きな値動きが見られるが、材積は少なく、下がった分については
前回の落札価格が飛びぬけて高かったものが元に戻っただけ、反面
高かった物については、同様に入札の失敗だった様だ。
材種にお付いては4.0m中目材が多くなっているが、これで良いと思う。
材積が多いだけに、売れ残りもある様だが、値崩れはしていない。
市場の方は売り易い3.0m材を欲しがっているが、長さの判断はあくまでも
径級によって伐り分けるべきだろう。

調査日　素材生産協同組合　7月15日

暑さが去って、梅雨明けは忘い違いであったか？　と思うような
はっきりしない天気の中で、素生協の市が開かれた
今回は広葉樹は新しい物が無く、今までの売れ残りが並ぶばかりで
入札者の顔ぶれも乏しかった。　群馬県の素生協の市場は広葉樹業者
の間では、穴場的に見られている様であるが、物件数が多い事で、
何時・どんな物が出ているか判らない。ある程度は目を離さずにいな
掘り出し物を逃してしまう。　と言ったところだ。　建築用材の流通
ンステム化してくると、針葉樹の建築用材を求める買い方と、広葉樹
昔利ざで一発儲けようとする買い方は、はっきり際立って
広葉樹業者が珍しい掘り出し物を目利きに頼る一発勝負で買うのとは
は対照的に、建築材の製材業者は事務的に、投網を討つ様に札を
入れる。だから沢山の物件に平均的な単価で入札する。その結果として
買えた物だけを引き揚げる。担当者の年齢層も若くなっている様だ。
県森連の市場に見られない買い方で、気になるのが、住友林業　や　林ベニア
と言った大手の最終需要会社が見える事だ。直接来ているのかは現時点
では、判らない。